

SPORTS FISHER SANCTUARY

聖地巡礼

ノースカロライナ、カスタムビルダーの生まれる地へ

#01 Jarrett Bay Boatworks

[ジャレットベイ ボートワークス]



2012年、国内唯一のジャレットベイをシートリアルした記憶が蘇る。横浜ベイサイドマリーナの桟橋に訪れたJarrett Bay 68、ハルナンバー30のロー&ワイドなブルワークをスターン方向から眺め、薄く広大なカロライナフレアをバウから見上げる。堂々とした迫力あるカロライナスタイルに釘付けになった。さらに、強力な加速とともにウッドボートの浮きや滑り、しなやかさや静寂性に驚き、ミッドシップバランスのパーフェクトなハンドリングに感動したことを今でも鮮明に思い出す。あれから3年、ジャレットベイの故郷 ノースカロライナの地に立つ。ジャレットベイの魅力に引き寄せられ、ノースカロライナの郊外にあるファクトリーを訪れた。

text: Yoshinari Furuya
photo: Kai Yukawa, Jarrett Bay Boatworks
special thanks: Jarrett Bay Boatworks
<http://www.jarrettbay.com>



建造やリフィットのためのファシリティや環境が揃うジャレットベイの聖地。70フィートクラスが悠々とする機装ブースも持つ。これらファシリティが整う環境から、高品質なボートが生まれてくる。

JARRETT BAY BOATWORKS

1986年、メンテナンスヤードから スタートした Jarrett Bay

ジャレットベイをはじめ、多くのスポーツフィッシャーがバハマやカリブ海に隣接するマイアミではなく、ノースカロライナで建造される理由。それはメキシコ湾流、英名ガルフストリームと呼ばれる暖流がもたらす豊潤な海による。

ガルフストリームは幅 100 マイル以上、厚さは 2,000m に達し、流量はおよそ毎秒 9,000 万トン、速さは 5 ノットにも及ぶ。世界最大の海の大河はハッテラス岬で寒流と出会い、ヨーロッパに向け流れを変える。同時に、その流れはアウターバンクスにぶつかることで海面を激しく波立たせる。魚影を求め集まるフィッシャー。それに応えるボートビルダー。ノースカロライナのボートビルダーにとって品質の基準は、荒れ狂うハッテラス岬を乗り越え、必ず戻ることができる走破性を持つこと。そこで鍛えられたボートは、当然のように強靱で高品質。その噂は東海岸全域にひろがりノースカロライナのボートは Living Legend、生ける伝説となった。

ジャレットベイが生まれたのは、その名の通りジャレット湾 (Bay)。ハッテラス岬の灯台が立つアウターバンクスに守られたパムリコサウンドに繋がるクリーク沿いにジャレット湾はある。後発でありながら、伝統のカロライナスタイルを継承し、今ではノースカロライナを代表するカスタムビルダーの一つとして広く認知されている。

ジャレットベイの特徴は巨大なカロライナフレア。浅瀬が続くサウンド内のチョッピーな波や大西洋の大きな波の壁に突進する時、

デッドライズ 45°の薄く鋭いバウステムが波を切る。浮力の少ないバウステムは潜り込むが、ノーズが刺さる寸前に巨大なフレアがブレーキとなる。水面を押さえ込み、左右に波をさばき、パウデッキをドライに保つ。カロライナフレアは、命を守る盾になる。そしてフレアは、機能美から芸術的な造形美へ。そしてジャレットベイのアイコンとなる。

メンテナンスヤードからスタートしたジャレットベイがスポーツフィッシャーを建造したのは 1986 年。クオリティの高いカスタムスポーツフィッシャーは評判となり、瞬く間にアメリカ全土に広まった。次々と建造を重ねボートサイズはアップし、造船所は手狭に。創業 3 年目と 15 年前の 2 度の引っ越しを経て、現在のコア・クリーク沿いで建造を続けている。

この場所は、ハッテラス岬の南西。ノースカロライナの州都ローリーから南東に 240km、車で 2 時間半。陸のロケーションは、水路や川に囲まれた何も無い不便な場所。だが、大西洋への入口ビューフォートインレットに流れ込むハーロウクリークに繋がり、大西洋にもすぐに乗出せるフィッシャーにとって理想の立地だ。クリークの奥にあるので、海面は静かで、安全な泊地でもある。また、ビューフォートインレットとは逆にアダムス・クリークを北上、ゲース・クリークの先には、カスタムビルダーの集積地ロアノーク島が浮かぶ。パムリコ湾やアルベマール湾とも海で繋がる便利なロケーションである。

ここジャレットベイは、ニューヨークやマイアミと水路で結ばれたインターコースタル・ウォーターウェイ(大西洋沿岸内水路)の中間点。



「シーワージェネス、
そしてクオリティに対するプライド。
それが、我々が強く求めるものだ」

Gary Davis
New Construction Superintendent - Jarrett Bay



便利な立地を活かし、175 エーカー、東京ドーム 15 個分の広大な敷地にジャレットベイ・マリン・インダストリアル・パークが建設され、ジャレットベイ・ボートワークスのカスタムスポーツフィッシャー建造やジャレットベイ・ヨットセールスを中心にエンジンやマリンパーツの供給や整備、金属加工やペイントブースなど、マリン関連のファシリティを全て揃えている。

ハーバーには 200 トンのトラベリフトをはじめ、3 基のリフトを有し、カスタムボート以外にもメガヨットやプロダクションボートなど、あらゆるボートのサービスやリフィットを受ける環境を整えている。さらに、釣り用品や氷、スナック、土産品やアパレルまで揃えるショップ、他にはシャワールーム、給油施設も整い、寄港地としての機能も充実。さらに、ハリケーン時にはおよそ 200 隻を受け入れることもできる設備を整える理想のマリンパークでもある。

カロライナボートで先駆けとなった 独自のトンネルハル

ファクトリーで我々を迎えてくれたのは、新艇建造の責任者でありデザイナーでもある Gary Davis。ジャレットベイのホームページや動画にも度々登場するジャレットベイを最もよく知る人物である。

Gary は、ファクトリーに隣接したデザインルームでジャレットベイについて語ってくれた。

「ジャレットベイのコンセプトは、第一に Seaworthy。例えば、バウのシャープなエントリーがその典型だ。室内空間は犠牲になるが、走破性を優先させた結果だ」

シーワージェイとは、耐航性、走破性のことで、シーワージェネスやシーキーピングともいう。つまり、荒れた海でも走りきる性能のこと。波に対し有利となる抵抗の少ない薄く尖ったバウステム。その浮力を支えるカロライナフレア。キャビンスペースは犠牲になるが、シーワージェイを優先させた結果だという。Gary は続ける。

「ライトウェイトのコンストラクション。トラディショナルスタイルも我々が強く求めているものだ」

シーワージェイにもつながる、強く軽いボート。カーボンやハニカム、コア材など、高い剛性でライトウェイトの船体を建造するため、ときには外部の技術者の強力を得て、最新の技術を投入する。反対にデザインは、カロライナフレアやタンブルフォームを取り入れたノースカロライナ伝統のスタイル。そして、落ち着きあるトラディショナルな内装デザイン。それがジャレットベイである。

さらに質問を続ける。「ノースカロライナの数あるカスタムボート



縦フレームやコールドモールドのハルを支える骨組み。カロライナフレアからタンブルフォームに繋がる丸みを帯びた美しいハルライン。ハルの積層を始める前、すでに芸術品の品格を持つ。

熟練の職人が造り上げる木部パーツや家具。質のいい材木も揃うノースカロライナは、手作り家具で世界的に有名なエリアでもある。腕のいい職人が揃うジャレットベイも、高級家具のように細部まで美しい。





Jarrett Bay 77 & Jarrett Bay 32 Overhead



Jarrett Bay 46 int_18



Jarrett Bay 34 _033_alt



Jarrett Bay 77 _067_alt



Jarrett Bay boat_0062



Jarrett Bay 70 IMG_6610 - Photo by DebraTodd



Jarrett Bay 43 HTX Hull 53 _289



Jarrett Bay 67 WKJB - Photo by Marc Montocchio



Jarrett Bay 61 SeaStriker Carolina Flare at Work - Photo by Alex McCarley

ビルダーの中でも、特にジャレットベイが支持される理由は何だと思えますか?」

「それはクオリティに対するプライド。また、建造したボートに対する職人達のプライド。そして、建造を完了したボート1艇毎に検討すること。ここをこうしたらもっと良くなるのでは?と。建造スタッフは、常に改善することを心がけている。それが、このポジションをキープしている理由だろう」と、彼は自信を込めて答えてくれた。

Garyがジャレットベイを建造しているファクトリーを案内してくれた。工場内で最も建造が進んでいるのはジャレットベイ64。インテリアが既に造られ、完成も近い。この64フィートで工期は約22ヶ月という。他には、ハルを建造中の84フィート。そして、90フィートの建造はスタートしたばかりだ。

完成間近の64のボトム。ジャレットベイは早くからトンネルハルを取り入れ、今では多くのカロライナボートがトンネルハルで建造されるようになった。なぜジャレットベイはトンネルハルなのか、その



建造中の46。高速後進に対応する、傾斜を持ち、大きくラウンドした美しいトランサム。ハルのスタイリングはジャレットベイのもの。塗装を終え、ツナタワーを搭載した完成品を想像するだけでワクワクする。



訳を聞くと、Garyは、拘りの数々を語ってくれた。

「一番の利点は喫水が浅くなること。バハマやカリブの島々はシャローが多いので有利。また、シャフトが水平に近づき、パワーロスが少なくなる。しかし、トンネルハルは振動やキャビテーションなどの問題がおきる。我々は水槽実験など1億円近い研究費をかけて、トンネルハルを研究し、問題点を解決した。また、トンネルハル用に変更したラダーを使い、スピード効率を約7パーセント上げることができた」という。

100%以上を目指すカスタムフィッティング Jarrett Bayの開発力が其処にある

そして、ファクトリーで見つけた一風変わったジャレットベイ46を見つけた。デッキレイアウトもボトムもスタンダードなコンバーチブルとは大きく異なる。その点を彼に尋ねてみた。

「あの46は、ライトタクルの世界的な記録を持つカスタマーの依頼で建造している。少人数で取り回しできるエクスプレスのデッキレイアウトだ。それに加え、デッキ全体を安全に素早く移動でき、スタンディングでファイトしやすいよう、ワークアラウンドになったんだ」

ライトタクルを使うビッグゲーマーの間で注目され、いくつかのカスタムボートで建造されるようになった人気のレイアウト。実用性やフィッシャビリティが高いことは明らかだが、トラッドでクラシカルなスタイリングにはまともにくい。その難しい条件をジャレットベイがデザインする。いかにもジャレットベイらしい、カロライナスタイルのハルデザイン。そしてジャレットベイに相応しいセンターキャビン。難しいオーダーも、バランスのとれた美しいスタイリングにまとめあげたところが見事だ。

それでも一つの疑問。なぜ、この46だけはトンネルハルではないのだろうか?

「この46は、直進性、スピード、高速後進時のハンドリングを優先させ、トンネルハルを使わずフラットなボトムを採用した。オーナーの望むものを、常に完璧以上に創り上げるのが我々の仕事なんだ」。その46カスタムから、ジャレットベイの開発力を垣間見ることができた。

ジャレットベイらしいトラディショナルなデザインやクオリティはそのまま、カスタマーの乗り方、釣り方に合わせ、高い次元で応える豊富な知識や経験。ジャレットベイが、数あるカスタムビルダーの中から選ばれる答えがそこにあった。P.B.



Haulout-Lineup_JBBW_HurricaneEarl_2010SEP02

Jarrett Bay Boatworks
530 Sensation Weigh, Beaufort, NC 28516
Phone: (+1) 252-728-2690
Fax: (+1) 252-728-2607
Email: info@jarrettbay.com
http://www.jarrettbay.com



JB_fullhouse